

第18号

2025年8月27日 発行

(令和7年)

せいしょうのかい おおぞら かいほう
青松の会 おおぞら 会報



地域とともに益々のご発展を

目黒区長 青木 英二

NPO法人青松の会の皆様には、日頃より目黒区の障害福祉行政にご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本年3月に開催された第2回おおぞら祭は晴天に恵まれ、200名以上の来場者があったと聞いております。当日は私も伺いましたが、多くの笑顔の来場者で賑わい、飯尾堯彦理事長をはじめ、皆様の地域に根差した活動を改めて実感いたしました。

また、就労継続支援B型事業所おおぞらでは、絵画教室やミュージックセラピーなど、芸術活動にも積極的に取り組んでいらっしゃるのと伺っております。昨年10月26日から11月17日まで目黒区美術館で開催した「障がいのあるアーティストによる作品展 日々のごよこび2024」にも素晴らしい作品を出展いただき、ありがとうございました。障害のあるかたの文化芸術活動は、個性と能力の発揮のみならず、社会参加につながる取組であり、区といたしましても引き続き推進してまいります。

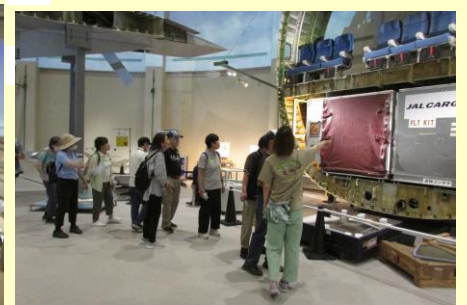
障害の有無にかかわらず、誰もが安心して地域で暮らしていくことができる共生社会を実現するためには、皆様のように、地域とともにある継続した活動が大変重要でございます。区との連携・協力につきましても引き続きお願い申し上げますとともに、青松の会の益々のご発展と、皆様のご健勝を心より祈念いたします。

(今年度も、総会に励ましのお言葉をいただきました。)

バスハイク:キノコ狩り・航空博物館

令和7年7月4日（金）に、千葉県の佐倉きのこ園と成田航空科学博物館に行ってきました。

五本木からバスに乗り、首都高から一路佐倉きのこ園に向かいました。大きく肉厚のシイタケを収穫。その後、ホテルマイステイズプレミア成田の最上階のレストランで、飛行機を見ながら昼食をとりました。近くの航空科学博物館を見学して楽しみ、酒々井（しすい）SAでお土産を買って帰路につきました。



○利用者の皆さんの感想

- ・キノコの足も刻んで炒めて食べた。全部食べた。キノコはやわらかかった。
- ・キノコ狩りにはおいがしたけど、後で塩をつけたりバター炒めにしたりして食べたらおいしかった。
- ・お昼は、マグロなどの刺身やエビフライ、各種天ぷらがあった。茶碗蒸しもあって、全部食べた。
- ・レストランから、飛行機が見えた。飛行機が飛んできた。
- ・中を見ることができて、飛行機に座った。旅行した時に乗ったのを思い出した。
- ・飛行機が好きなので、いろいろ見ることができて、よかった。
- ・お土産は黄色いお菓子、バームクーヘンを買ってきた。家族に喜ばれた。

令和7年度総会を開催しました

令和7年6月24日に、青松の会の令和7年度総会を、おおぞらの2階で開催しました。来賓としてご参加いただいた、障害施策推進課 櫻庭加奈子課長の紹介後、ご挨拶をいただきました。

続いて事務局の田中伸治副理事長から、本日の総会が定員を満たして有効に成立した旨の報告があり、議長の選任について諮り、長友祐三正会員が選出されました。

各議案の審議に先立ち、議長より目黒区長からのメッセージを紹介いたしました。

令和6年度の事業報告では、お守り包み作業が増えたが、一部業者の撤退など受注の入れ替えがあった。外部販売量が増え、おおぞら祭についても今年は黒字化できたとの報告があった。作業だけでなく、誕生会やバスハイクなど福利厚生についても行っている。

続いて、令和6年度の決算報告・監査報告では、ねむの木寮についても初年度順調に推移し、法人全体で現時点で問題はない旨報告があった。

令和7年度の事業計画では、受注仕事、自主生産を行いながら、今年も例年通り各行事等は継続することとし、バスハイクも春と秋の2回行うこととしたとの報告があった。利用者が減っている中、新規利用者につながる活動も今後検討していくことが必要性があるとのことであった。ねむの木寮についても、行事等も含めて初年度行った内容を継続して行っていく。

令和7年度予算について。予算案資料を基に、公認会計士である、監事より説明。おおぞらは大きな変更はなく、昨年度新たに始めたグループホームの運営について、税金の発生の可能性について等の説明がなされました。

最後に、第五号議案として、理事及び監事の選任について、改選期となる今回、田中伸治理事の退任と長友祐三理事と丸山岳彦理事の就任の確認と飯尾、圓山、熊谷、井上、瀬畑各理事および音田、川田両監事の再任が全員一致で議決され終わりました。

*総会終了後、理事会がもたれ、理事長に飯尾堯彦理事、副理事長に長友祐三理事が互選されたことをご報告いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○新しい理事のごあいさつ

長友祐三 理事より

今年度より、理事を務めさせていただくことになりました長友祐三です。大学卒業後の50年間、福祉現場、教育現場にて福祉に関わる仕事に携わってきました。初めての障がい福祉との出会いは、大学時代に「障害者福祉の父」と呼ばれる、糸賀一雄の著書、『この子らを世の光に』を手にした時です。糸賀は「障害児たちこそ、我々が目指すべき社会の在り方を照らしてくれる道標となる存在である」という主旨で、著書名にもなっている「この子らを世の光に」という言葉を残しました。この言葉の持つ意味をきちんと理解することをライフワークのひとつとしてきました。

近年、少子高齢社会化が急速に進む中で、社会情勢は大きく変化し、障がい福祉を取り巻く環境もこれまで以上に困難な課題に直面しております。こうした中で、「おおぞら」「ねむの木寮」の利用者のみなさん一人ひとりが自分らしく幸せに生きていくことができるよう、最良のサービスを提供することを最優先としながらも、様々な福祉ニーズにも積極的に応えていける施設となるよう、そして、なにより地域に根差した施設となるよう頑張っていきたいと考えております。そのためにも、職員のみなさんが働きがいを感じる魅力ある職場づくりに注力して参りたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

丸山岳彦 理事より

皆様、はじめまして。新たに理事となりました、丸山岳彦と申します。おおぞらに通所して8年目になる丸山颯斗の父親です。長年、私立の中学・高等学校一貫校の教師をしていましたが、現在は別の私立学校の剣道部コーチをしております。珍しいことに挑戦したい性分なので、自分自身の剣道も二刀流という珍しい構えで、区民大会に年甲斐無く挑んだりしております。趣味でも歩くことに拘り、若い頃は東海道五十三次などにチャレンジし、歩いて京都、諏訪、日光に行ったりもしましたが、最近はもっぱらスクーターで移動するようになってしまいました。

教員畑しか歩いておらず、障害者支援に関する知識、経験が少ないですが、その経験が何かお役に立てればと思い、理事を引き受けることにしました。皆様どうぞよろしくお願い致します。

【 お お ぞ ら 活 動 紹 介 】

～ ～ ～ ～ ～ 自 主 製 品 ～ ～ ～ ～ ～

≪ ステンシルによる布巾、ハンカチの製作 ≫ ≪エコバッグ（しぼり染め・ステンシル）≫
 ≪ビーズワーク（ストラップ・ネックレス・ブレスレット等）≫ ≪干支飾り≫
 ≪ 木工加工（キーホルダー等）≫ ≪毛糸製品（ハンドモップ）≫ ≪絵画≫
 ≪紙製品（一筆せん、絵葉書、カレンダー）≫ ≪食品加工（各種ジャム）≫



～ ～ ～ ～ ～ 外 注 作 業 内 容 ～ ～ ～ ～ ～



官 公 需 …… 区立公園清掃2ヶ所・四十雀巣箱作り
 企 業 受 注 …… お守り包み、銅線解体
 菓子袋折りと穴あけ、紐通し
 毛糸のサンプルセット作成など

・ 個人・企業受注承ります。お問い合わせ下さい ・

ホームページ

<http://www.seishonokai.or.jp/>
 又は、「青松の会」で「検索」してご覧下さい。

≪ 青松の会おおぞら職員 ≫

〈理事長〉飯尾 堯彦 〈副理事長〉長友祐三 〈施設長〉圓山賢吾
 〈副施設長・サービス管理責任者〉熊谷重信 〈主任〉前田友江
 〈支援員、目標工賃達成指導員等〉山崎日出夫・青木紀子・伴博司
 加藤由香里・綱本敦子・松田淳

特定非営利活動法人 青松の会おおぞら

〒152-0001 東京都目黒区中央町2-32-13

TEL : 03-3710-2531

FAX : 03-3710-2540

E-mail : oozora@seishonokai.or.jp

発行人 圓山 賢吾